

ゼミナール紹介

担当者名	石井健一
e-mail アドレス	ishiiken@bunkyo.ac.jp
研究室	3315
在室曜日・時限	木曜 3 限(予約が必要)
個別相談など (日時・方法)	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	現代社会の消費者行動論、マーケティング、マーケティング・リサーチ演習、マーケティング・リサーチ、社会心理学、情報社会における計量社会学入門、多変量の統計データ解析、調査集計法 A、社会調査論、社会調査演習 1
2025 年度担当科目	現代社会の消費者行動論、マーケティング・リサーチ演習、マーケティング・リサーチ、マーケティング、情報と社会、総合演習 B、基礎演習 A、基礎演習 B
授業概要	消費者行動またはメディア利用に関するテーマを具体的に設定して、卒業論文作成に向けてデータ分析を含む研究を行う(何らかのフィールド調査を実施し、自分でデータを収集することが原則だが既存データを利用することもある)。マーケティング・リサーチまたは、社会調査関係の単位を修得していることが好ましい。 統計分析を SPSS や R を用いて分析することが困難でない学生が好ましい。 テーマの例としては、消費行動とライフスタイル、SNS などアプリの利用、ネット投稿のテキストマイニング、広告の内容分析などがある。アンケート調査、内容分析、テキストマイニング、インタビュー調査、観察調査などの方法の中からデータ収集の方法を選び、4 年生のときに自分でデータを収集する。収集したデータは、統計手法を用いて分析する。具体的なテーマは、教員と相談し、関連する先行研究の論文をゼミで発表してから、3 年生の秋学期までに決める。

ゼミナール紹介

担当者名	大橋 洸太郎
e-mail アドレス	kohashi@bunkyo.ac.jp
研究室	5 号館 4 階 5406 室
在室曜日・時限	火曜日 3 限
個別相談など (日時・方法)	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	データ分析に関する科目
2025 年度担当科目	情報表現演習 テキストマイニング 基礎演習 A プロジェクトマネジメント演習 統計学入門 調査集計法 A 調査集計法 B 情報学序論 情報社会の分析と理解 情報社会のサービス企画 統計学概論
授業概要	本ゼミナールではデータ分析を行うことを主眼に置いています。データをまとめ、その内容の重要なポイントを読み取り、分かりやすく相手に伝える、そのような力が得られるようにしたいと思います。 本ゼミナールでは、以下の 2 つの目的を持っています。 ① データサイエンス分野の分析手法の習得 ② 理論に基づいた調査の体験 春学期には、調査会社と連携し、論文探索に基づいた調査仮説、質問文を作成します。これまで、「若者の離職率と孤独感の関係」や「一人暮らしの際に両親は子供に TV を買おうかと尋ねるか」といった学生発による調査テーマを作成し、実際に調査会社の審査を経て、調査をすることができました。来年度も同様に、ゼミナールの皆で考え、調査する意義のあるテーマを探し、実査に移していきたいと思っています。 秋学期には、調査したデータを分析していきます。Excel、R、Python、KH Coder などの中から学生が使えるツールを選んで 1 から学習し、データに基づいた調査仮説の検証を行っていききたいと思います。また、最終的には学外に発表の場を設け、春学期の調査計画から秋学期の分析結果までを発表し、成果としたいと考えております。

ゼミナール紹介

担当者名	佐久間勲
e-mail アドレス	isao@bunkyo.ac.jp
研究室	3313 研究室
在室曜日・時限	原則として火曜日昼休みと 3 限、水曜日昼休み、金曜日昼休みと 3 限 ※研究室の web サイト(https://w.atwiki.jp/isakuma/)を確認してから来るようにしてください。
個別相談など (日時・方法)	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	社会心理学、計算社会科学入門、計算社会科学、社会調査論、調査集計法 A・B、社会調査演習 I・II など
2025 年度担当科目	社会心理学、計算社会科学入門、計算社会科学、社会調査演習 I・II など
授業概要	本ゼミナールは、社会心理学研究(実験、調査、内容分析、公開データを含む二次データの分析を実施し、そこで得られたデータに基づいて社会現象を説明するタイプの研究)を実施できる能力を育成することを大きな目標とします。社会心理学のうち特定の研究テーマを取り上げることはありませんが、以下の(3)や(4)に挙げられている題目を見ればわかる通り、メディアやコミュニケーションなど情報社会に関連した計量研究が典型的なものとして挙げられます。 本ゼミナール内での具体的な活動は以下の 4 つになります。 (1) 社会心理学の研究法：テキストや論文を講読しながら、社会心理学の研究方法について理解を深めます。 (2) 計量研究の実習：特定の尺度を取り上げ、その尺度の信頼性や妥当性を考察します。その成果をレポートにまとめて、プレゼンテーションをします。 (3) 個人研究：各自の関心に基づきテーマをひとつ決めてデータの収集し、それらをまとめたものをゼミナールで発表してもらいます。過去のテーマ例は、「新型コロナウイルスが心理的側面に及ぼす影響に及ぼす影響」「ジェンダーフリー時代の女兒向けアニメの内容分析」「ヒット曲の歌詞のテキストマイニング」などが挙げられます。個人研究を通して、社会心理学の研究内容はもちろんのこと、研究方法、研究論文の書き方についても理解を深め、4 年次の卒業研究に結びつけます。 (4) 卒業研究のテーマの検討：4 年時に取り組む卒業研究のテーマを検討します。情報社会と関連づけることができるテーマであれば何でも構いませんが、自分で収集したデータ、もしくは既存のデータを分析し、それらの分析結果に基づき何かを主張するタイプの研究が望ましいです。これまでのテーマ例としては、「LINE 利用が家族関係に及ぼす影響」「スマフォゲームの依存の原因と結果」「ディズニープリンセスの描かれ方の時代的变化」「都道府県別のキャッシュレス決済の普及率に影響する要因」など質問紙調査(web 調査)、内容分析、二次データの分析に基づくものが多いです。

ゼミナール紹介

担当者名	佐藤 孝司
e-mail アドレス	satotakashi@bunkyo.ac.jp
研究室	3 4 1 3
在室曜日・時限	火 3, 5、第 1, 5 水 3, 4, 5、木 2 （面談は事前にメールで問い合わせ願います）
個別相談など （日時・方法）	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	IT・情報システムに関する科目を受講していることが望ましい
2025 年度担当科目	システム開発技法、システム設計、プログラミング入門、プログラミング演習 A/B/C、ゼミナールⅠ／Ⅱ、プロジェクトマネジメント演習Ⅰ／Ⅱ
授業概要	情報システムや IT に興味がある人や、将来 SE 職を希望している人に、現代の情報システムの信頼性などの課題と対策やあるべき姿を、以下のステップで研究します。 【ゼミナールⅠ／Ⅱ】 講義形式とグループ議論により、現代の情報システムの特徴と課題について幅広い領域で理解し考察します。 卒業研究のテーマについて調査と発表を繰り返します。 加えて、プレゼンの資料作成や発表のスキルを身に着けます。 【卒業研究Ⅰ／Ⅱ】 ゼミナールⅠ／Ⅱで検討した卒業研究のテーマについて、さらに深掘して調査と研究を進めます。 特に研究テーマの領域を指定しません。 以下の領域の研究を薦める場合もあります。 - 高信頼性・高生産性のモダンシステム開発技法の研究 クラウドネイティブなモダン Web フレームワークを用いたシステム開発や AI モデルを含むシステム開発では、帰納的開発や探索的開発などの現代の開発現場で重視される手法が用いられますが、その信頼性や生産性向上の視点について研究します。 - 高信頼性を支えるモダンソフトウェア品質保証方式の研究 モダン Web システム開発や AI モデル開発などを高品質で開発するための開発技法と顧客価値向上を図るための品質管理方法について研究します。

ゼミナール紹介

担当者名	関 哲朗
e-mail アドレス	seki@bunkyo.ac.jp
研究室	3415
在室曜日・時限	火・水（授業があるので対面を希望する場合はメールで予約してください）
個別相談など （日時・方法）	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	情報社会学科の専門科目全般
2025 年度担当科目	プロジェクトマネジメント，同入門，人間愛と情報社会，アルゴリズムとデータ構造 入門など
授業概要	・情報システム開発やソフトウェア開発の成功，失敗事例などのニュース記事などを元に，情報サービス産業に関する基本的な知識やプロジェクトマネジメントに関する知識を少しずつ身に着けることで，卒研のテーマ設定や就職活動に対する基礎を獲得します。 ・春学期中に卒業研究のテーマを設定します。これは自分の興味がどこにあるのかを真面目に考えるためにも必要ですし，何よりも9月以降には始まる就職活動を行う上で必須となる，自分の専門分野は何かという説明能力を身に着ける上で大切なことです。 ・受講者の合意が得られれば，異なる学年の学生の相互乗り入れによる学習効果を期待してゼミナール及び卒業研究を合同で行います（水曜の午前中） ・ゼミおよび卒業研究で共同作業はありません。学科のきまりにより，一人ずつ異なったテーマで調査と研究を進めます。授業時間中は，教員による講義の他，各自のテーマに従った口頭報告（スライドを使って発表することはありません）をもとに，全員で話し合う形式で進行します。 ・就職について（先輩たちの様子から） 普通にゼミに出席し，学習を進めていけば，就職活動に困ることは無さそうです。会社の方からお迎えがあることはありませんので，積極的に活動しない人が決まることはないです。 頑張った人は，みんな中堅以上の企業に就職できています。 ゼミの性格上，IT 関連企業の知識や面接で必要な知識は身に付くようです。 多くの先輩がそれなりの企業に就職し，企業の広報誌や Web サイトで紹介されたり，4 年目くらいからはプロマネのような仕事で協力会社の人たちに指揮したりしていますので，積極的かつ真面目にゼミに参加すれば，就職活動もその後も特段心配するようなことではなさそうです。

ゼミナール紹介

担当者名	西尾 好司
e-mail アドレス	Knishio3@bunkyo.ac.jp
研究室	3403
在室曜日・時限	火曜、水曜、木曜の昼休み時（事前にメールで連絡を下さい。）
個別相談など （日時・方法）	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	2 年次開講科目：情報社会のビジネスモデル（2 年次に履修していない場合は 3 年次に履修してください） 3 年次開講科目：情報と企業のイノベーション、企業と社会における問題の発見と解決、ビジネス発想法
2025 年度担当科目	文献購読、情報社会のビジネスモデル、情報と企業のイノベーション、企業と社会における問題の発見と解決、ビジネス発想法、プレゼンテーション技法
授業概要	1. 3 年次のゼミナールの目標 3 年次のゼミでは、次の 2 つを大きな目標とします。 ・ 文献や資料を読み、レジュメを作成し、議論する習慣を身につける。 ・ 秋学期（ゼミナールⅡ）で卒業研究のテーマや方向性を定め、基礎的調査（文献・統計データなど）に着手し、研究対象の組織や市場の全体像を理解できるようにする。 2. 3 年次ゼミナールの進め方 ・ 文献の輪読を通じて、効果的な読み方や著者の意図の理解を深め、問題意識を掘り下げます。また、研究に必要な文献やデータの収集方法を学びます。 ・ 企業活動のケース研究では、スマートフォン、IoT、マーケティング、小売業・サービス業などを取り上げます。イノベーション、デジタル化、ビジネスモデルについて議論し、今日の重要テーマや企業の製品・サービス開発に関する理解を深めます。 ・ 地方公務員志望者も想定し、社会課題や地域活性化に関する論文も取り上げます。 3. 卒業研究のテーマについて ・ 研究対象は 主に企業活動ですが、必要に応じて 地方自治体も含めます。 ・ テーマは 3 年春学期終盤～秋学期前半にかけて、教員と相談しながら決定します。 ・ テーマ決定にあたっては、①研究を行う理由（問題意識）の明確化、②関連する先行研究の文献調査、③対象組織（企業・自治体）や業界、市場の全体像の把握を行います。 ・ これまでの卒業研究のテーマの例としては、ビジネスモデル、デジタル・トランスフォーメーション、製造業の振興、ベンチャー企業、地域振興などがあります。 4. その他 ・ 毎回、事前に資料を作成して参加することを原則としています。

ゼミナール紹介

担当者名	西川和
e-mail アドレス	nishikaw@bunkyo.ac.jp
研究室	3302
在室曜日・時限	月曜日と水曜日の昼休み(図書館などにいることも多いので、事前に連絡をいただくと助かります)
個別相談など (日時・方法)	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	司書課程各科目
2025 年度担当科目	データベース入門、図書館概論、図書・図書館史、情報サービス論、情報サービス演習、文献講読、プロジェクトマネジメント演習、データモデリング、ゼミナール、卒業研究
授業概要	本ゼミナール担当者の研究範囲は図書館情報学、書誌学、デジタル人文学です。 ゼミでは3年の春学期では各自が興味を持った文献を読んでまとめ、それをもとにほかのゼミ生からもコメントをもらいながら議論することを通じて、最新の研究を把握します。秋学期は卒業論文に向けて、春よりも明確な方向性をもって論文を探し、内容をまとめたうえで議論をしていくことになります。4年ではそれまでに得た知識をもとに卒業論文執筆に向けた調査を進めていきます。 論文を探し、読み、まとめることは授業時間外に各自で取り組んでももらいます。個人で文献と向き合う時間を多くとるため、地道に努力をする学生や文章の読み書きを好む学生には向いています。逆に言えば文章を読み書きすることができない学生、自分で作業を進めることができない学生には向いていません。

ゼミナール紹介

担当者名	松本修一
e-mail アドレス	shuichi@bunkyo.ac.jp
研究室	1115 研究室
在室曜日・時限	金曜日以外はほぼ毎日いると思います
個別相談など (日時・方法)	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	配属後に個別に指示をします。2年生までは特に拘りはありません。
2025 年度担当科目	社会システムモデリング、経済性の科学等
授業概要	交通関係の専門書および研究論文を交替で読む輪講および各自が教員とともに相談しテーマを決めて行う研究の2つを並行して行うことを予定しています。このような専門的な研究経験を通じ、今後社会に出る際必要とされる、論理的思考能力、プレゼンテーション能力など様々な素養を身に付けることが出来ます。SPI 対策、エントリーシート作成指導、インターンシップ先の紹介などの就職対策も学内でも有数の実績があります。 また、国の交通安全プロジェクトを主導しているので、国費で北海道等の研究出張に同行する可能性もあります。

ゼミナール紹介

担当者名	吉田 知加
e-mail アドレス	cyoshida@bunkyo.ac.jp
研究室	3312
在室曜日・時限	火曜 3 限・4 限 または 木曜 3 限 ○事前にメールにて連絡願います。
個別相談など (日時・方法)	【変更不可】 別紙の通り
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	企業活動と情報システム，プロジェクトマネジメント，システム分析，調査集計法Ⅰ・調査集計法Ⅱ，社会調査特論，社会調査演習Ⅰ・Ⅱ (選択テーマによる)
2025 年度担当科目	システム分析，企業活動と情報システム，キャリア研究，プロジェクトマネジメント演習Ⅰ・Ⅱ，情報化要求の分析とソリューションの提案，ゼミナールⅠ・Ⅱ，卒業研究Ⅰ・Ⅱ
授業概要	1. ゼミナールの目標 本ゼミナールでは，情報社会での不透明な点を明らかにすること，またはそこにある課題を ICT により解決することをテーマに，卒業論文を完成することを目標とします。その過程で，調査・分析を行い，手法を習得することを授業での目的としています。 2. 研究の主なテーマ 卒業論文のテーマは，学生が個々に選択し，教員と相談の上，決定します。テーマは，教員の専門分野か、目標に沿う適切なテーマである必要があります。推奨する分野は以下のとおりです。 (1) 情報システムの開発方法と開発マネジメント 企業活動・社会活動の支える情報システムを，開発する（作る）立場で考えます。従来のシステム開発は，予め決められた品質・予算・納期を守る開発方法とマネジメントで実施されてきました。しかし，不確実性の高い今日では，反復型やアジャイル型開発手法により柔軟にかつ迅速に顧客に価値を提供できる開発方法が求められています。研究を通じて環境や経営の変化に対する情報システムの役割を考えていきます。 (2) 実社会での情報システム 今日の社会では，金融業，製造業，小売業，農業，建設業，電気・ガス等社会公共事業，福祉事業など，多くの業種の企業が活動を営んでいます。研究では，一つの業種・業態に焦点を絞り，そこにある課題とそれを情報化により解決する方法を探ります。 (3) その他 情報社会の課題に対して ICT による解決策を提案することで，社会，企業，ユーザーに「役に立つ」テーマを選び研究として推進します。 3. ゼミナールで習得する調査分析手法 【定量分析】・ネットリサーチ (Freeasy) でのアンケート作成と実施方法 ・相関分析 (Excle/ R Studio), t 検定 (Excle/ R Studio), 重回帰分析他 (Excel/SPSS) 【定性分析】・インタビューの実施方法とテキストマイニング (KH コーダー) 4. メッセージ ・チームワークを培う機会として，ゼミ合宿を実施します。2025 年度は神戸で IT 企業訪問，理化学研究所でのスーパー・コンピュータ「富岳」見学を体験しました。 ・「情報システム開発に関する研究」，「情報社会の課題解決の提案」は，就活でも，企業に就職してから直に役立つテーマです。 ・一緒により良い情報社会を提案し築いて行きましょう。